



## 春秋戦国時代の名臣 (秦の商鞅)

12月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2022年12月11日(日)

秦の孝公は、中原の諸侯から蛮族視されていた秦の政治改革を行った。  
孝公のもとで近代化政策を断行して後年の始皇帝に至る覇業の基礎を固めたのは、法治主義者として有名な商鞅であった。

秦の孝公の元年(BC361)、黄河及び華山から東には、強国が六つあった。すなわち、齊、楚、魏、燕、韓、趙である。周王室が衰えてからというもの、諸侯は力によって対決し、競って領土を拡大していた。

孝公は仁政に努め、戦士を優遇し、穆公(BC660～621 在位)の治政を再現しようとした。

孝公は人材を求め、重臣景監を介して、魏から来た商鞅と三度面会した。商鞅の説く帝道、王道には関心を示さなかったが、最後に強国の方策、霸道を聞いて、我が意を得たりと商鞅を採用した。

孝公は強国策を実行するに当って、国政の抜本改革を断行しようとしたが、重臣や世論の非難を恐れてためらっていた。

商鞅は孝公に、改革は旧習にそまった重臣や人民には知らせず、結果だけを享受させればよい。俗論や知識は不要であり、古来、礼も法も一定不変ではなかった、「疑行は名なく、疑事は功なし」と説いて新法の断行を同意させた。孝公は、商鞅を左庶長(宰相に次ぐ重臣)に抜擢し、国政改革を実行した。

商鞅の手掛けた改革は、五人組、十人組の制度を設け、互いに監視、告発をさせて、連座制を布く、一家に二人以上の男子がいながら分家をしない者は税を二倍にする、公族でも軍功を挙げなければ、公族の籍を剥奪するなどといった、支配階級の特権を奪って官僚化するものであった。

こうして商鞅は宰相となり、軍を率いて魏の都安邑を降し、策略によって魏を騙して勝利を得た。魏はとうとう都の安邑を捨て、大梁に遷都した。

商鞅が魏を破って帰国すると秦王は商・於の地に封じた。

以後、商鞅は商君と呼ばれるようになった。

やがて、秦では孝公が没して、太子(秦の恵王)が立った。

だが、商鞅のために特権を奪われた公族や貴族の反感は強く商君が謀反を企んでいると、警吏に命じて商君を捕まえようとした。

商君は逃げ出し、函谷関にたどり着いて旅館に泊まろうとしたが、旅館の主は、客が商鞅だと知る由もなく、「商鞅さまの決めた法律で、証明書なしの者を泊めませんと、罪に問われます。」と断った。

参考：(司馬遷史記、秦本紀、商君列伝、徳間書店)